

会報

【会長就任のご挨拶】

伊藤公一

この度、第7代の会長に選任されましたので、一言ご挨拶申し上げます。

会長選出の経緯につきましては、会報等でご承知のことと存じます。当初会長候補になられました高城 寛先生が、ご健康がすぐれないとのことで就任を固辞されましたうえ、折悪しくと申しましょうか、当時会長の佐藤芳雄先生が急逝されてしまい、学会事務局をあずかっておられた渡辺幸男先生はじめ、元会長でいらした先生方は再選任の手続き等でご苦勞をされたと同っております。ともかく、10月初頭の全国大会までに新会長と新役員を決めねばならないというタイムリミットがあり、慌ただしく選挙が行われまして、その結果がこうしてご挨拶する羽目と相成ったのでございます。

小生、敢えて会長職を固辞せず（固辞したくとも、幸か不幸か健康で——もともと、定期検診を固辞しているためですが）、学会の仕事に励む責任を少々感じましたのは、恩師や薫陶を受けました先輩の諸先生方がこの学会を先導してこられたからでございます。いまから20年ほど昔、この日本中小企業学会の創設を企てられたのが、小生の大学のゼミの恩師、故山中篤太郎先生であり、その立ち上げに奔走されたお一人がゼミの大先輩、瀧澤菊太郎先生。後の会長のお一人が大学院のゼミの恩師、伊東岱吉先生。伊東先生の愛弟子、故佐藤芳雄先生は小生の最も「こわい」兄弟子ではありました。2代目会長時代の故藤田敬三先生にも、日本学術振興会の委員会で警咳に接する機会に恵まれました。

そういう訳でございますから、小生が会長との報で、恩師の方々の安らかなお眠りを妨げることになりましても、学会運営に微力を捧げる責任はあると思う次第でございます。

微力の大部分は、学会事務局の引き受けであろうと存じます。千葉商科大学には、事務処理能力に長けた会員（もちろんこの能力だけに勝れているの

ではありません）が、事務局局長を小生が押しつけた鈴木孝男先生をはじめ何人かおいでになります（小生は知る人は知る、事務的には「ずぼら」）。この点が小生の会長職の唯一の取り柄かと存じます。永らく学会事務をこなしてこられた慶應義塾大学からノウハウを伝授していただき、平成11年4月から事務事始めといたします。当初は不慣れのためご迷惑をおかけするやもしれませんが、その後はご期待にそうことができると存じます。



会長就任挨拶を書くように言われ、過去の会長挨拶を参考にしようと思いましたが、会報が散逸している始末（ホントに「ズボラ」）。でも、却って格調高きご挨拶を拝見したりしますと。気後れするに違いないと思直しまして、コトの顛末と小生の心持ちの風景をしたためることでご挨拶に代えさせていただくことに致しました。

とは申しましても、少し「抱負らしき」ことを述べなくては、挨拶として格好がつかないと思直しまして、付け足しを致したく存じます。それは、佐藤前会長の「遺志」を継ぎまして、当学会のアカデミックレベルを一段と引き上げることでございます。『年報』原稿のレフェリー制採用をはじめ、全国大会での発表に先立つ各地方部会での発表の半ば「義務づけ」等を実現したいと考えております。これらに伴います諸経費のアップに対処するために、久しく見送られてきました年会費の増額等を検討したいと存じます。

どうか、会員諸氏におかれましては、さらなる学会の発展のために格段のご協力を賜りたく、お願い申し上げる次第でございます。